



#30 Paris et Nouméa

人気パティシエ桜井修一さんが体験したパリでのケーキ修行時代のお話とニューカレドニアのフランス語学校の情報。

レッスンは、名詞形と動詞形の文章表現に注目しています。

☆パーソナリティ

ボブ & ちなみ

☆今週のゲスト

桜井修一さん
「フラウラ」オーナー&パティシエ
東京都世田谷区世田谷1-14-17
TEL.03-5451-0015 FAX.03-5450-2215

Dominique Roqueton
directrice du Crepac

Anne Prévot
professeur de français au Crepac

Générique et intro

Le 19 février 2007, trentième numéro de chocolat, magazine bilingue français – japonais.

Le pâtissier Yuichi Sakurai nous parle de l'époque où il était étudiant à Paris.

Une école de français dans un coin de paradis, il y en a, au moins, une et c'est en Nouvelle Calédonie.

洋菓子「フラウラ」桜井シェフ

東京世田谷の人気ケーキ店フラウラの桜井修一さんにお話を伺いました。さらに美味しいケーキを作りたいという思いからパリで修行されたとのこと。道を極めるには、気持ちがまず大切なんですね。お店に伺って、フランスと日本が融合されたケーキの数々に圧倒。フラウラにはカフェスペースもあるので、プチフランス気分を味わいに、ぜひぜひ足を運んでみてください。



桜井 修一さん

覚えよう petit à petit ♪

départ

出発

se diriger

向かう、進む

île

島

la Nouvelle-Calédonie

ニューカレドニア

territoire français d'outre-mer

フランス海外領土(T.O.M.と略記)

au milieu de...

...の中央に

l'océan Pacifique.

太平洋

bien sûr

もちろん

paradis

天国

peuplée de

人が住む

pas mal de

かなり沢山の

ethnies

民族

Mélanésien

メラネシア人

Polynésien

ポリネシア人

Asiatique

アジア人

Vietnamien

ベトナム人

Indnésien

インドネシア人

différents

[名詞の前で、不定冠詞は省く] さまざまな、いろいろな

à la carte.

好みで、アラカルトで

également

同じく

niveau(x)

水準

Étant donné que...

...なので

allant de ... à...

〜から〜に及ぶ

Nouméa

ヌーメア市(ニューカレドニアの首府)

exotiques

エキゾチックな

à base de

〜をベースにした

coco

ココナツ

thon

マグロ

Nouvelle-Calédonie

Au départ de Tokyo, on peut aller en France en se dirigeant vers le sud. Pas très loin des îles Fidji se trouve une île française, la Nouvelle-Calédonie. C'est un territoire français d'outre-mer au milieu de l'océan Pacifique. Dans la capitale Nouméa, on y trouve aussi une école de français, le CREPAC..

Dominique.- Eh bien, la Nouvelle-Calédonie, c'est très près du Japon. Puisque nous sommes situés à neuf heures de vol de Tokyo. Nous sommes dans le Pacifique. Nous sommes plus près de l'Australie, bien sûr, et c'est l'île la plus proche du paradis.

Bob.- Alors, la culture. La culture de Nouvelle-Calédonie, c'est une culture française, c'est une culture polynésienne, qu'est-ce que c'est?

Dominique.- Non, la culture est une culture française, puisque nous sommes une île française. Mais, cette île est peuplée de nouvelles,... de pas mal d'ethnies, essentiellement des Mélanésiens, donc c'est plutôt une culture mélanésienne, mais il y a également des Polynésiens, il y a des Asiatiques, comme des Vietnamiens, des Japonais, et des Indnésiens.

Bob.- Quels genres de cours est-ce que vous proposez au CREPAC?

Anne.- Alors, nous proposons différents cours, nous avons des cours individuels que nous faisons... nous proposons des cours à la carte. Nous avons également des cours pour adultes, nous avons également des cours de civilisation française, et de civilisation, qui portent essentiellement sur la Calédonie. Voilà, et nous proposons des cours pour tout type de niveaux.

Dominique.- Étant donné que nous travaillons à la carte, nous pouvons organiser ce que vous voulez, mais généralement, on nous demande plutôt des séjours allant de une semaine à un mois. Mais, il est également possible de rester plus longtemps, si l'on veut.

Bob.- Qu'est ce qu'on mange en Nouvelle-Calédonie? Qu'est-ce qu'on mange à Nouméa ?

Dominique.- Eh ben, on mange beaucoup de choses comme à Paris, mais on mange aussi des choses exotiques, c'est-à-dire que... on mange beaucoup de choses à base de coco, on mange beaucoup de poisson, puisque vous savez que beaucoup de thon que vous mangez à Tokyo vient de Nouvelle-Calédonie.

petite leçon: ぶんぽう一口メモ

テキスト中の文法事項および表現の着眼点をまとめてみましょう。

1. **au départ de Tokyo** (～東京を出て)：名詞形の表現と動詞形の表現

départ(出発)の動詞形は**partir**(出発する)ですから、この表現は《**quand on part de Tokyo**》と言い換えることができます。

逆に、たとえば《**quand je suis arrivé à Paris**》(私がパリに着いたとき)は、動詞**arriver**を名詞形に変えて、《**à mon arrivée à Paris**》と言い換えることができます。

2. 主語と動詞の倒置

pas très loin des îles Fidji se trouve une île française, la Nouvelle-Calédonie.(フィジー諸島からさほど遠くないところに、フランスの島ニューカレドニアがあります。)

ここでは主語**une île française**と動詞**se trouve**が倒置されています。これは**pas très loin des îles Fidji**を文頭に持ってきて強調しているからです。

3. **étant donné que...**(...なので)

Étant donné que nous travaillons à la carte, nous pouvons organiser ce que vous voulez.

(私たちは[各自の]ご希望に合わせていますので、皆様のお好みに沿ったコースを企画します。)

étant donné que.は、相手も知っている理由を確認するときに用います。**puisque**とほぼ同じ意味になります。

4. **allant de ... à...** (...から...にまで及ぶ)

On nous demande plutôt des séjours allant de une semaine à un mois.

(むしろ数週間から一ヶ月に及ぶ滞在のご要望があります)。

allantは**aller**の現在分詞ですね。**aller de ... à ...**は「～から～に及ぶ」ということです。

C'est un train de Paris à Rome.のように、出発点と到着点というときに使えます。

ニューカレドニア：「天国にいちばん近い島」と森村桂

ニューカレドニアはオーストラリアの西側のメラネシアに位置し、南太平洋の美しいサンゴ礁に囲まれ、「光の島」と呼ばれています(首都はヌーメア)。タヒチなどとともにフランス海外領土のひとつで、約八時間の空の旅で行ける日本にいちばん近いフランスといえます。

1960年代半ばにまだ観光地化していなかったこの島を、日本人のあこがれの南の島にしたのは森村桂の旅行記『天国にいちばん近い島』(角川文庫)でした。

幼い頃に「ずっと南の地球の先っぽに天国にいちばん近い島」があって、「いつもお日さまを浴びて、明るくてあったかい」ところだ、という父の話を聞いて、桂は夢をふくらませました。父の死後、大学をでて就職したものの、「一生懸命朝から晩まで働いても、みんなについていけない」自分に嫌気がさし、「力尽きた」彼女は「あくせく働かなくとも生きていける」「夢のような島」ニューカレドニアに旅立つことを決意します。

二十四歳の秋、運よく処女航海にでる鉱石運搬船サザンクロス号に無料で乗せてもらい、ついに南十字星輝くニューカレドニアにやってくるのですが……

そこは想像とは大違い。ニッケルを含んだ赤土ばかりの「暑苦しい」「赤い砂漠」だったので。物価は高いし、安い民宿もみつかりません。そのうえ、日本人観光客などいない商社の町ヌーメアで、産業スパイと勘違いされ、唯一言葉が通じる日本人商社マンから冷たく無視され

てしまいます。こうして旅のハイな気分は消え去り、「心の中にぽっかりと空洞があいて」、「ここはあの夢の町じゃないんだ」と思いすっかり落ち込んでしまいます。

そんなとき彼女は、島に暮らす日系二世の人々やメラネシア人と出会い、言葉に不自由しながらも持ち前の天真爛漫さを発揮して交流を深め、戦中戦後を生きた彼らの苦難の人生を知り、彼らの温かい心に接します。

最後に、ココヤシの実を山ほどプレゼントしてくれた酋長の息子に招かれて「世界中でいちばん早く太陽が昇る」ウベア島も訪れます。そこには「ダイヤモンドよりももっと明るい星がいっぱい輝いて」いました。サンゴ礁の上を歩きながら彼女は「お父さん、来たわよ、ここに」、と死んだ父に報告したのです。

帰国後すぐ書き上げた森村のこのデビュー作は、軽快な文体が受けて大ヒットしロングセラーになります。その後、有名作家になった森村桂は、世界各地を旅したあと、1983年に軽井沢に移り住み、夫とともに経営する手作り菓子の店「アリスの丘」で長い間バナナケーキを焼き続けます。それは、ニューカレドニアで過ごした当時、ニュージーランドに渡って食べたおいしいバナナケーキの味を再現したものでした。

あくせく働くことを嫌った彼女でしたが、晩年の約十年間はうつ病に悩まされ、2004年にみずから命を絶って64歳の生涯を閉じました。

ところで、『天国にいちばん近い島』を読むと、カタカナ表記のフランス語がたくさん登場します。なかには、今日ではいくぶんおかしいと思われる表記もみられます。

彼女は、最初のうちは「ボンジュール」と「アベック・プレジュール」というフランス語しか知らなかったと書いています。現在なら「ボンジュール」**Bonjour**、「アヴェック・プレジュール」と記すところでしょう。また《**au revoir**》は「オーボア」と表記しています。これらは、初めてフランス語を聞いた森村が、おそらく聞いたとおりに書いたものでしょう。

こうした表記を見ると、日本人には聞き取りにくいフランス語の音があることがわかります。まず、《**r**》の音は私たちにはきわめて聞き取りにくい音のひとつです。ですから《**Bonjour**》は「ボンジュール」とは聞こえずに「ボンジュール」となり、《**au revoir**》は「オールボアール」とは聞こえず、「オーボア」と聞こえたのでしょう。たしかに、フランス語の《**r**》音は、口の奥で発音される[**h**]に近い音ですから、ときおり聞こえないこともあります。また、《**plaisir**》の[**zi**]の音も日本人には発音しやすくはありませんね。

他方、この作品には、文化差に関連したエピソードがあちこちにみられます。そんな点にも関心向けながら森村桂の『天国にいちばん近い島』を読むと面白いかもしれません。